

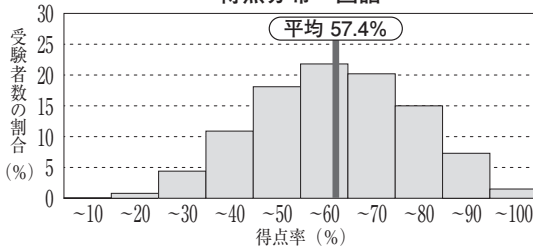
国語 高一生部門

現代文は難度が上がっても今回のような読解を心がけよう。古典の勉強はここからスタートしよう！

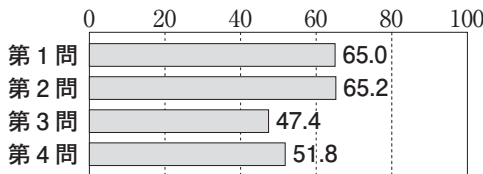
I. 全体講評

6月の「全国統一高校生テスト（高一生部門）」の国語の平均点は一一四・八点（二〇〇点満点）であった。全体としては、高一生の今の時点の成績としてまずまずの結果であった。この平均点に届かなかった諸君は、ぜひ、間違えたところをしっかりと復習してほしい。また、この平均点を

得点分布 国語



大問別得点率 (%)



上回った人も、さらに上を目指すためにも、解説・解説授業を利用して、出来なかったところ、出来たけれども自信をもって答えていないところはしっかりと復習をして完全理解を目指すようにしましょう。

分野ごとにみると、現代文分野は評論・小説とも六五%を超え、よい結果であった。基本的なレベルの文章については、きちんと読むことが出来たようだ。今後、文章の難度が上がり、分かりにくいものになっても、読解の仕方は変わらない。ぜひ、今回と同じように読み解くことを心がけよう。なお、評論（第1問）の問2については、正答率が三七・三%という残念な結果であった。ポイントとは傍線部の「同じこと」とはどういうことかを読み取ることができたかどうかであった。

「同じこと」とは前の段落の内容だが、直前は具体例であるので、具体例の前に書かれている「支配するとか支配される」というような明確な関係はない」という主張が目がいけば、「コンピュータが人間をコントロールしている」という誤肢④を、正答を超える、四一・九%の人が選ぶことはなかったはずだ。筆者が主張していることをきちんと押さえて読むことを心がけよう。

古典分野は、現代文分野と比べるとまだまだという結果であった。今回は高1の6月という時期

を鑑み、漢文（第4問）は《書き下し文》での出題としたので、多少は分かりやすかったようで五割を若干上回ったが、古文（第3問）については五割を切る結果であった。いずれにしろ、古文も漢文も、このテストをきっかけとして勉強をスタートしてもらいたい。今回のテストについては、解説や解説授業で復習をしてもらいたい。とにか、古文・漢文は、覚えるべきことを覚えなければ、やみくもに文章を読んでもできるようなにはならない。古文なら重要古語と古典文法（読解のためには、特に、助動詞・助詞・呼応の副詞）、漢文なら重要漢字と主な句法についてマスターしよう。

高1生の今の段階で、古文・漢文をきちんと勉強をしている人ははつきり言って少ない。今の時期にきちんと勉強を進めることができれば、今後の受験勉強において非常に大きなアドバンテージを得ることとなる。このテストを受験した諸君はぜひ、ここから古典の勉強をスタートしよう。

II 学習アドバイス

◆現代文読解のための基礎となる漢字力・語彙力を高めよう！

現代文の読解のための演習はもちろん大切なこ

とではあるが、高1生の今だからこそ、国語の勉強としては、基礎知識をしっかり身につけることが重要となる。諸君が受験する現在の「センター試験」に替わる「大学入学共通テスト」の国語で高得点を取るためには、相当高度な読解力が必要だ。知識を直接問う問題はそう多くは出題されない。だからといって基礎知識を習得する勉強をおろそかにしたとしたら、それでは読解力自体も身に付かない。現代文は漢字力・語彙力がなければ読解できない。読解演習で十分な量と質を確保するためにも、高1生のうちに基礎知識がある程度固めてしまおう。漢字については、受験用の問題集、語彙についてはおもな評論用語、ことわざ慣用語等をまとめた参考書を利用しよう。また、文章を読んでいて、分からない語句に出あったらこまめに辞書を引くことを心がけるなど、地道な努力を続けていこう。

◆古文は重要古語と古典文法、漢文は重要漢字と主な句法、読み方のルールをマスターしよう！

古文・漢文とはかく知識がベースの科目である。知識が無ければ読解力もなにもない。重要古語・古典文法、漢文の重要漢字、句法などの知識をおろそかにしたまま古典の成績が上がるということは絶対ない。古文・漢文ほど《やるべきこと》がはっきりしていて、《やるべきこと》をやれば必ず成績が伸びる科目はない。そのことを自覚して、計画的に勉強を進めることが何よりも大切だ。

また、漢文は本格的な勉強は高校に入ってから始める人が多いと思うが、返り点のルールに従って読めるようになり、重要な句法を一通りマスターしてしまえば、意外なほど得点力がアップする。返り点や句法といった読解のルールは、千年以上にわたって蓄積されてきたノウハウの結晶であり、最小限の努力で驚くほどの効果を上げるこゝが出来るものだ。先人の智慧に敬意を払い、漢文の勉強を進めよう。